

P2-76 妊娠初期妊婦における葉酸添加チューイングガム摂取の葉酸補充ならびにつわり症状改善に対する効果聖路加国際病院看護部¹, 京都大人間健康科学系専攻², 広渡レディスクリニック³, 成田病院⁴林 文子¹, 相原友美², 井田茉莉恵², 山内 文², 亀田知美², 清川加奈子², 廣渡恒治³, 大沢政巳⁴, 成田 收⁴, 菅沼信彦²

【目的】つわりは妊婦の約8割に発症し、その症状は日常生活に影響する場合が多い。また葉酸は、胎児の神経管閉鎖障害のリスクを低減させることが知られている。そこで我々は、葉酸添加チューイングガムの、葉酸補充ならびにつわり症状の改善効果を検討した。【方法】つわり症状を呈した妊娠初期妊婦91名を対象とし、悪心、嘔気など6項目のつわり症状を、軽症1点から重症5点(計6-30点)で評価した。ガムは1)葉酸添加・グレープフルーツ味・クエン酸配合(S群:30例), 2)葉酸添加・フルーツミント味・クエン酸未配合(T群:33例), 3)1)の葉酸非添加(U群:28例)を無作為に配布した。ガムからは7粒で400 μ gの葉酸が溶出するように調製し、7~14粒/日の摂取とした。2週間使用後につわり症状の改善度を評価すると同時に、ガム使用前後の血中葉酸ならびにホモシステイン値を測定した。これらの研究は、各施設倫理委員会の承認ならびに対象者の同意を得て行った。【成績】年齢、ガム使用開始ならびにつわり発現妊娠週数、摂取ガム個数は、3群間で有意差はなかった。葉酸値(mg/dl)はS群で7.6 \pm 2.4(平均 \pm 標準偏差)より16.2 \pm 9.2, T群で7.5 \pm 1.8より14.4 \pm 5.8と有意に上昇したが、U群では不変であった。同時にホモシステイン濃度もS群とU群では明らかに減少したが、U群ではこの減少は見られなかった。つわり症状は、ガム使用前後にS群で15.9 \pm 3.4より13.6 \pm 3.4に、T群で14.8 \pm 3.0より12.7 \pm 3.5に有意に改善したが、U群では前で14.6 \pm 3.7、後で14.1 \pm 4.1と明らかな効果は認められなかった。【結論】葉酸添加ガムが、妊娠初期妊婦の葉酸補充ならびにつわり症状の改善に効果的であることが示唆された。

P2-77 葉酸認知率と葉酸サプリメント内服率の向上のために：産婦人科外来の現状分析

小牧市民病院

近藤美佳, 下須賀洋一, 森川重彦, 中村智子, 伊藤由美子

【目的】本邦妊婦の葉酸認知率と葉酸サプリメント内服率は徐々に上昇し、2008年には各々36.8%, 41.8%であった。計画的妊娠であった割合は63.9%, 妊娠6週以前に妊娠を確認した割合は69.8%であった(2008年)。従って胎児成長に葉酸が重要な役割を担っているとの情報が妊娠前から伝達されれば、2/3の妊婦は葉酸を妊娠前から内服することが可能である。産婦人科外来での現状を分析した。【方法】2009年8・9月にかけて、日本産婦人科医会名簿から無作為に抽出した産婦人科医305名へアンケート調査表を送付した。同封した返信用はがきを利用し、集計した。現在165名(54.0%)から回答が寄せられた。【成績】1, 外来に葉酸の役割に関する教育的ポスターは貼付されているか: Yes28.1%。2, 外来に葉酸サプリメント(無料サンプル)は常備しているか: Yes47.0%。3, 外来に葉酸の役割に関する啓蒙的パンフレットは常備されているか: Yes51.1%。4, ホームページを利用して葉酸の重要性に関する情報提供をしているか: Yes5.9%。5, これらの物品・情報が提供されたら、外来で常備・活用するか: Yes91.8%。【結論】妊婦の注目をひくポスター、無料の葉酸サプリメント、啓蒙的パンフレットなどは、ほぼ半数の外来に備わっている。インターネットにて各種情報を入手している妊婦も多いため、葉酸が神経管閉鎖障害を防止するとの情報を、インターネットを介して提供することは有効である。90%の医師が妊婦指導・啓蒙に前向きに対応すると回答した。

P2-78 妊婦の葉酸認知率と葉酸サプリメント内服率：国内の地域差はあるか？刈谷豊田総合病院¹, 国立病院機構岡山医療センター², 湘南鎌倉総合病院³, 山田産婦人科病院⁴, 高山赤十字病院⁵, 安城更生病院⁶, 埼玉医大⁷, 慈恵医大⁸, 大阪府立急性期総合医療センター⁹, 仙台市立病院¹⁰, 成田病院¹¹長船綾子¹, 山本真一¹, 多田克彦², 井上裕美³, 山田満尚⁴, 脇田勝次⁵, 松澤克治⁶, 石原 理⁷, 大浦訓章⁸, 竹村昌彦⁹, 渡辺孝紀¹⁰, 大沢政巳¹¹

【目的】受精前から葉酸を内服すれば、神経管閉鎖障害の多くは防止可能となった。全国規模でアンケート調査票を配布し、妊婦の葉酸認知率、ライフスタイルなどを調査した。【方法】47都道府県の産婦人科医201名の協力を得て、2008年9月から12月にかけて1731通アンケート調査票を回収した(回収率36.1%)。妊婦の年齢は10-20歳代が37.6%, 30-40歳代が57.5%, 不明4.9%であった。妊娠前期は46.5%, 中期が27.0%, 後期が25.7%であった。調査データは北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州の8地域に分割し、統計的に解析した(χ^2 検定法)。【成績】葉酸内服で神経管閉鎖障害を防止できるとの情報は平均36.8%が承知していた。最大値と最低値は、それぞれ四国地方(43.3%)と北海道(30.2%)であった。葉酸サプリメントを内服していたのは、平均41.8%であった。最大値と最低値は、それぞれ関東地方(48.9%)と九州地方(35.0%)であった。各地域の値は、平均値と比較して有意差を認めなかった($p>0.05$)。2008年のこれら数値は、2007年のデータに比べて有意に上昇していなかった。妊婦のうち計画妊娠したのは63.9%, 妊娠6週以前に妊娠を確認したのは69.8%, 禁煙していたのは96.6%, 禁酒していたのは98.8%, 98.2%は葉酸情報を一般大衆へ提供すべきと考えていた。【結論】妊婦の葉酸認知率と葉酸サプリメント内服率は、各々40%前後であり、ライフスタイルはほぼ満足のいくものであった。全国を8地域に分類して検討したが、有意差を認めなかった。